

十神山



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064  
島根県安来市古川町534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
http://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

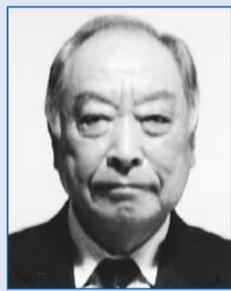
11月9日に開催された安来節保存会代議員会において、令和3年度の上位昇格者と表彰者、感謝状贈呈者が報告されました。

今回、唄の部では出雲俊之助さん（加茂支部）が4年ぶりに名人になられ、准名人に6名、大師範に7名の方が昇格されました。おめでとうございます。

来年の1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

### ◆ 大師範 (七名)

鼓 唄 銭太鼓 唄  
柳 吉妹 野  
楽 岡尾 口  
忠 照な 峯  
男 子おみ 子  
(神 湖 加 本部道場  
門 陵 茂)



古山秀夫  
唄の部  
(湖 陵)



小池孝子  
絃の部  
(本部道場)



安達久美  
唄の部  
(本部道場)

### ◆ 准名人 (六名)



出雲俊之助  
唄の部  
(加 茂)

### ◆ 名人 (一名)

## 上位昇格者

絃 絃 鼓  
富 真 三  
田 野 島  
朋 和 章  
徳 也 二  
(関 尾 平  
西 高 田)



濱崎正人  
銭太鼓の部  
(静 岡)



小村顯二  
鼓の部  
(松 江)



出雲啓之助  
踊の部  
(大 東)

### 感謝状贈呈者

JR安来駅  
どじょうすくい出迎え隊  
(本部道場)  
野坂亮若 (津山中央)

武堀一守濱丸藤松伊原牟松小秋砂小山曾加小大小矢内中尾平松岩  
藤江川屋崎山井岡藤田本溝田川谷崎田藤村野田田田村添田本田  
辰良静正勢津珠豪勲シゲコ子恵佳ル子治潔実勇江子威子香美子子恵記代彩  
(関 天 天 天 静 山 宮 宮 広 広 江 米 鳥 東 境 松 益 平 天 天 湖 湖 神 加 石 出 飯 本 部 道 場 道 場)  
東 根 戸 戸 岡 口 島 島 東 実 美 子 取 伯 東 江 田 田 社 道 陵 陵 門 茂 見 雲 南

### 会員表彰者 (二十九名)



出雲街道民謡交流会10周年記念出版

## 山陰の至宝 安来節

「民謡の王者であり続けるために」

1冊 2,000円 税、送料共  
ご注文: 渡部孝夫 090-2809-1233

「唄われて100年の魅力」基礎編 1,000円 在庫わずかです。  
「甦る安来節」士気を高める内容。1,800円

上達のヒントが満載。優勝大会が待ち遠しい!!

師範になるため、そしてなってから。

もっと安来節が好きになります。

# 機知に富んだ笑いと淡い哀愁

並 河 健 蔵

・安来千軒 名の出た所  
社日桜に十神山

幅広い大衆に愛されている安来節の歌詞を鑑賞したいと思つた。安来節保存会の年刊集「安来節のしおり」の表紙裏にこの句がのっている。二代目安達順吉氏の揮毫による骨太の書が目に入る。保存会としても大切な歌詞なのであろう。

## 安来千軒 名の出た所 社日桜に 十神山

十神山と社日桜とが、身近な処から見られる所を千軒といっているから、現在の安来町を中心部としている当りであろうか。この歌詞は、この場所に立つて、「安来千軒」と叫んでいるから、この保存会が設立された明治四十四年頃の安来の港の町の住民達の気負いを感じることが出来ると共に、住民達の賑わいを支えているのが、天下に誇る社日桜と十神山である。十神山を歌つたものに次の歌詞がある。

・安来節聞こし召さんと  
八百万の神の

十神お山に集り給うは  
他国の神無月

社日桜についての歌は数多くある。私は、両者が多くの人々に益々愛されることを切に願っている。十神山の好きな人は、十佳美山とも呼んでいる。

・咲いた桜に なぜ駒つなぐ  
駒が勇めば花が散る

可愛らしい小馬の活動し始めたばかりの状態を美しく咲き乱れる桜の花と、うまく組み合わせ、静態と動態とを端的に表現している。歌の節も桜の花の静けさの調べ（リズム）と小馬の勇むときのメロディとマツチして楽しい作品である。（駒は雑語の表現である）

・お国訛りを ついさとられて  
唄いましたよ安来節

私が全国の地方銀行の研修担当者会議の懇親会の席上、止むを得ず初めて安来節を歌った。正調安来節を知っている者は誰もいないと分かったからのことである。ところは銀座二丁目の入った所の料亭であった。

・松江大橋 柳の雨に  
わたしやあなたを濡れて待つ

竹久夢二の絵の世界を思わせる。舞台で想像してみよう。第一節の「松江大橋 柳の雨に」は、松江を訪れたこともない人でも想像はつく。明治時代、戦争で疲れたわが国が、ようやく戦争の時代から逃れて、いわゆる大正ロマンといつて賑わった短い時代の叙情性を考える。哀愁がたただよう。

・安来港に 碇はいらぬ  
十神水雲で船つなぐ

十神山の西端になぎさ公園がある。その水域は浅く岩礁が続いていて、水雲（もずく）が岩

に張りついていた。中海の水位が下がって、岩礁が現れると、そこに岩を覆うように密集した水雲があった。われ先に探ろうとするが、なかなか採れない。淡い草色で極めて細長く口の中ではとても噛み切れない。少年時代の楽しい思い出である。

・七つ下れば 安来馬が戻る  
馬の鈴の音足拍子

「七つ」というのは時刻のことで、今の午後四時頃をいう。若い女性の真情であろう。奥出雲の「たたら」で出来上がった鉄鋼を運ぶ馬を曳いて安来の港へ帰ってくるのが待ち遠しいのである。彼女の心中は恋心で一杯で、次第に足拍子も高まってくるのである。

・親の手ほどき その子がうけて  
孫も唄うよ安来節

とにかく楽しい。その家庭に加わって歌ってみたい。この歌詞は貴重な現在を尊び、これは将来の安来節の繁盛ぶりを夢見ている。

・親がうたって 子供について  
孫も好きだよ安来節

民謡も短歌も俳句も五七調であり、また七五調の連続で楽しいリズムと民俗性がある。今回あげた安来節も同様であるが、通して思うには、安来節の歌詞には機知に富んだ笑いと淡い哀愁を感じるのである。

# 私と安来節

## 指導部員としての抱負



指導部員 渡部 泰孝  
(松江支部長)

「指導部に入ってくれないか？」と、打診があった時には、大変光栄で誇らしい気持ちと、反面人様の指導をするなどとてもおこがましく、「こんな私に務まるだろうか？」と、不安が交錯した複雑な思いでした。返答に躊躇しながら、しばらく対話している中で「今

までやって来られた事を基に指導されたいです」との言葉に推され、承諾いたしました。指導部の原部長はじめ先輩部員の方々から仕事内容や心構え等の話を伺って、いよいよ活動が始まるかという矢先でした。新型コロナウイルスによる一切の保存会活動も中止に見舞われ、まさしく出鼻をくじかれた思いでした。これも運命かと覚悟して来たる時を待つこととなりました。

私自身は、踊りの師匠に師事して始めたのではなく、一から事細かく教わった経験は無いに等しいので、指導する立場での不安はありますが、自分なりに思考を重ね、経験し、体得して来た事を振り返る機会となりました。どじょう掬い踊りの魅力は、まず独

特な歩き方にあります。足の運び方、特に膝・腰の動きの流れを分析し、リズムに乗りながら中腰で歩く足腰の使い方をしっかりと身に付ける事が大切だと思います。更には、様々な所作やその時々の心情を顔の表情や体の動きで表現するパントマイムだと思つていきます。細かい所作も疎かにしない努力が踊りを向上させる大切な要素の一つだと思つています。リアルな動きの中に滑稽さを求めながらも品位を落とさず、写真と誇張のバランスを考えながら、楽しく踊る事を更に追及して行きたいと思つています。

皆様からの要望や質問にお答え出来る、技量向上の一役が果たせるよう努力して参ります。

## 私と安来節の歩み



指導部員 妹尾なおみ  
(加茂支部)

『三味の音色が稽古の合図 やすぎやすぎと唄えども なかなか上手に唄えない 「なおみ そげじゃない！こげだわなあ」 父が教えた安来節 これのご縁で皆様と会えて嬉しやこの舞台心を込めて唄うのは本場正調安来節』お世辞にも上手い歌詞とは言えませんが、これは私が、自分達が主催する舞台で自分と安来節の歩み、人との出逢い、想いを込め唄った唄です。四歳の時「おまえも唄ってみるか？」という父の言葉をきっかけに安来節を唄い初め、昭和五十二年小学一年生で安来節保存会の会員になりました。以来、宿題をしていようが何をしていよ

うが、父が三味線を弾き始めれば、それが稽古の合図でした。毎日練習してもなかなか父の教えどおりに唄えず、厳しく叱咤され、できない自分への悔しさと、叱られる事に怯え、涙ながらに唄っていた記憶があります。そんな時、いつも私の傍には母がついていてくれました。食事の片付けも後回しにして、愛情深い父でしたが、芸に対してはとて厳しく、生涯で褒められたのは一度きりです。全国優勝大会少年初段の部で優勝させていただいた日「今日はおまえ、よう唄ったわ」当時少年の部の地方は大人でもよかつた為父の三味線で唄い終え、舞台袖に帰る時、ポソツと言ってくれた事を今でも鮮明に覚えています。それ以後は「まだまだ全然ダメ」とダメ出しばかりで、結局平成十二年に亡くなるまで、父をうなずかせる唄を聞かせてあげる事はできませんでした。この事は私の現在進行形の課題です。昨年母も亡くなりましたが、私が今も唄い続けていられるのは半分両親のおかげだと感謝して

います。そしてもう半分は、ご指導くださる諸先生方、理解し協力してくれる家族、安来節をより多くの方々に「聞いて、観て、知ってほしい」と頑張る仲間、支えてくださるすべての方々のおかげです。そんな私が、この度指導部員にご推挙いただきました。私には身に余る重責と思っておりますが、今後もより多くの方々とのご縁を大切に、会員の皆様と一緒に勉強させていただきながら、共に成長していけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。最後に、今はSNS等で沢山の動画が見れますし、古い音源を聞く事もできます。現在ご指導くださる先生方の芸は勿論ですが、先人の先生方のすばらしい芸を見聞きする事は、安来節の魅力を見直し、いろいろな意味でプラスになるのではないのでしょうか。良かったら是非そういう楽しみ方してみてください。



### 私と安来節



指導部員  
山本英三  
(広島東支部)

令和二年度、保存会より指導部員を拝命しました広島東支部の山本英三です。

本場の方ばかりの指導部において広島ブロックの私へのご推挙頂き、その重責に身の引き締まる思いが致します。未知数ではございますが、会員の皆様にご貢献できます様、粉骨砕身務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

年初よりの新型コロナ禍、年間行事はすべて中止となり、本当に残念です。三密を防ぐため、練習も思うに任せず、会員の皆様のストレスは貯まるばかり、貴重な一年間を失った様な気がします。でも今は充電期と捉え、モチベーションを上げていきます。

### 安来節と共に二十五年



指導部員  
安達雅宏  
(本部道場)

この度、指導部員となりました安達雅宏と申します。よろしくお願いたします。

さて、安来に生まれ安来に育った私ですが、育った場所が安来の中心地からほど遠く、子どもの頃は安来節に触れる機会がほとんど無かったように思います。記憶にある安来節と言えは、小学校で習った銭太鼓、中学校の体育祭で踊った下ジョウ揃い踊り、お盆正月に親戚の叔父達が酒席で安来節を手拍子で唄っていたのを横で聴いていたことくらいでしょうか。

ンを維持し、ウイズ・コロナの練習方法を工夫し、来るアフターコロナの時には蓄えた実力を発揮しましょう。

私の保存会への入会は昭和59年でした。以前より民謡の唄・三味線を7年ほど習っていた時でした。山口支部の会員の方に誘いを受けたのです。自宅にお邪魔し、保存会について説明を受け、演技もして下さいました。整った組織・すばらしい唄・絃に鼓、感動しました。私の「琴線に触れた」とはこの事でしょうか。「安来節と共に歩む人生」が始まりました。

平成元年に唄三段、絃二段に昇格、広島への転勤、大変お世話になった山口支部から現支部に転籍しました。全国組織の保存会だからこそ何ら支障なく、引き続き活動出来ることは大変有難いと感じました。転勤後の広島での勤務はバブルの真つただ中、多忙を極めました。安来節だけは辞めないぞの一念、ワークライフバランスに苦労しましたが、何とか続けることが出来ました。入会して35年、この間、ご指導下さいました諸先生・先輩方、また

会友の皆様深く感謝申し上げます。また、理解して応援してくれた家族にも感謝です。

会員の減少と高齢化は喫緊の課題です。今の若者の音楽のトレンドは、詩吟や小唄・民謡等の歴史的文化的な邦楽ではなく、ポップスやロック等にあるのでしょうか。私は営業という仕事から人と接する事も多く、折々に「楽しいですよ、一度見学にきませんか」と誘うのですが、なかなか巧くいきません。テレビ・新聞で関連した放送・記事も散見します。有効なのはメディアの活用でしょうか。朝ドラ「わろてんか」に関西支部の皆さんが出演したのはインパクトがありました。この様なチャンスが度重なるチームが起きるのではと期待します。でも、これは他力本願でしょう。やはり個人個人の地道な仲間づくりが大事だと思います。

安来市の無形民俗文化財である先人が残してくれた伝統芸能を継承しなければなりません。微力ではありますが、安来節保存会の発展の一助となる様努力致します。

### どじょうに救われる!?



斎藤政昭  
(関東支部)

私と安来節との出会いは、仕事の関係で東京に単身赴任をした際に、どじょう揃い踊りを習っていた友人(関東支部所属)からの誘いがあり、冷やかしの半分浅草のお稽古場に見学に行ったことから始まります。1時間ほど見学したところ、支部長から「斎藤さん、見学だけじゃつまらないので踊ってみなさいか」と誘われ、踊らせていただきました。すると、支部長から「初めてにしては大変

上手だね!」と満面の笑みで大きさに褒められました。昔から褒められると調子に乗るタイプのは、その日の内に入会いたしました。入会のキツカケはさておき、今では、笑顔あふれる滑稽な踊りに魅せられて26年目になります。

また、当初はどじょう揃い踊りだけでしたが、後年、唄と銭太鼓も習い始め、現在、資格審査会にチャレンジしております。まさに「唄に踊りに銭太鼓の安来節を満喫している」と言いたいところですが、その奥深さと難しさを感じつつ、悪戦苦闘しながらも、笑顔で日々の練習を重ねているところです。

話しは変わりますが、私は、令和元年6月に約45年間のサラリーマン生活を卒業し、毎日が日曜日の生活になりました。定年後に充実した生活を送るためにも次の3

つが大切だとよく言われます。1つ目は「きょうよう(今日、用事がある)」、2つ目は「ちよきん(筋肉がある事)」そして3つ目は「えがお(笑門来福)」です。

私の場合、朝食前の安来節の練習は生活リズムを整えてくれます。そして、中腰の踊りは自然と足腰を鍛え、人前での笑顔も大分慣れてきました。

また、踊り仲間との交流や公民館等での公演および慰問活動等々、充実した日々を過ごさせていただいております。これまでは、どじょうを上手に揃おうと練習を重ねてきましたが、よく考えてみると、どじょうに救われている(?!?)日々であると感じるこの頃です。これからも、安来節と仲間感謝しながら、笑顔でチャレンジしていきたいと思ひます。アラ、エッサツサ。

### 私と安来節



長谷利子  
(和歌山支部)

平成六年より、安来節保存会(当時、関西支部和歌山教室)に入会させていただきました。早二十六年になります。平成十三年に唄師範の後、絃、鼓、銭太鼓と師範の免状をいただきました。当時、銭太鼓の資格審査会は冬で、交通規制もある中、大変な思いをしながらも美しい雪化粧に見とれ、不安と期待とで心を躍らせながら通ったのが、心に残っています。

安来市へは、唄い初め会から始まって、年に五、六回通うのが定番でした。しかし今年、新型コロナの影響で行事がすべて中止になり、淋しい限りですが、会員も「来年こそは」と頑張っています。

和歌山支部では、藤原真千子さんと、梨江さん親子と私とで、月に一回コミュニティセンターを借りてお稽古をしています。特に男踊りの会員が多く、梨江さんが頑張っている指導しておられます。私は主に子供達の指導に携わっており、地域の子供新聞にも活動が紹介された事もあります。私の小学生の孫も、二年前からお稽古を始め、昨年の優勝大会では、少年三級唄の部で準優勝をいただきました。今年からは、絃と鼓も習い始めています。今年、資格審査を受けられませんが、「来年こそは」と頑張っており、また、優勝大会にも参加したいと意気込んでいます。これから成長していくのが楽しみです。次世代を担っていく子供達を育てるのが、私の夢であり、大きな責任であると感じております。出来るだけ本場の安来節に近づけるようにと、心掛けて指導にあたりたいと思っております。

和歌山支部も年二回は移動講習会を実施するように心掛けてきました。最後に一言、令和三年に国民文化祭が和歌山で開催されます。「民謡民舞の祭典」も、十一月七日(日)に粉河ふるさとセンターで行われますので、ぜひとも皆様もご参加くださいますようお願い申し上げます。



支部情報

大江戸支部 「おさらい会」



一字川 普 (大江戸支部)

大江戸支部では、年に数回「支部だより」を発行しています。三月の安来節保存会の資格審査会、八月の優勝大会、秋のおさらい会、他にも随時発行しています。今号の支部だよりは、大江戸支部設立から十七回目の「おさらい会」、令和二年十月十一日(日)に東京都江東区砂町文化センターで実施した特集号です。目的は一年間の稽古の集大成の発表の場であり、次年度の資格審査のための舞台演習です。会終了後、参加者から感想文が寄せられ、それを基に発行しています。毎年、この時期の周年行事となっており、楽しみにされている会員が多いと聞いています。

今年は何と云っても、どこへ行ってもコロナ、コロナの話題です。資格審査会や研修会等はすべて中止となりました。実行委員会では、六月の打ち合わせで中止、延期、実施の検討をしましたが、支部長の「新型コロナ



ウイルス集団感染」の恐ろしさが常に脳裏にあるものの、令和三年四月四日(日)の審査会に向けて、約三カ月の自粛期間の空白、モチベーションを元にとの思いも強く実施に至りました。七月から九月まで数回にわたりコロナ対策、当日の役割分担、プログラムや地方表作成等の打ち合わせを重ねました。当日はプログラム通り進行し、無事終了したことに安堵しました。後日の反省会では、役割分担、プログラム作成等は例年通りでしたが、コロナ対策は初めてであり、舞台への誘導に配慮できず、密になってしまったという反省がありました。来年はこのような心配をしないで出来ることを願っています。支部には、いくつかの教室があり、教室ごとに銭太鼓、三味線、踊り、唄や鼓等を行っています。毎月定例会で合同練習を実施し、研鑽を重ねています。また、支部や教室単位で地域での発表会やボランティア活動を実施しています。見学者や体験者の中から新規会員も生まれています。

事務局からのお知らせ

令和3年度「資格審査会」について

令和3年度の資格審査会を通常通り開催することは、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念があり、通常での開催は難しいと判断いたしました。

そこで、令和3年度の資格審査会(師範、熟年師範審査会も含む)は、「ビデオ審査」を実施することにいたしました。

詳細につきましては、支部にご案内しております。

「熟年師範」階級の導入について

令和3年度より新たに「熟年師範」階級が導入されました。この階級の受審資格は、満70歳以上(令和3年4月末で70歳になられる方も含む)の准師範の方が対象です。

審査料、免状料は、師範と同額です。

その他、詳細につきましては、支部にご案内しております。

安来節のしおり(令和2年度版)に誤りがございました。追加してお詫言いたします。

【追加】 広島支部 P142 ◆初段 絃:空 久美

訃報

藤井健蔵さん(大社支部長、八十歳)が令和二年八月七日逝去されました。藤井さんは、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



安来節保存会 和歌山支部

毎月 第4土曜日 午後1:00 ~ 5:00 河南コミュニティセンター TEL 073-477-6522

山青し 海青し 文化は輝く 紀の国わかやま文化祭2021

第36回国民文化祭・わかやま2021 第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会 令和3年10月30日(土)~11月21日(日)

令和3年11月7日(日)『民謡・民舞の祭典』

粉河ふるさとセンター 和歌山県紀の川市

全国からお国自慢!

民謡民舞のご参加をお待ちしております!

◆お問い合わせ: 支部長 藤原真千子 TEL&FAX 073-477-3502

感動を呼ぶ 音色と響き 丹念な加工 調整 仕上げ

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1

TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP http://www.syamisen.com/

新型コロナウイルスに負けるな!!

安来節保存会大江戸支部

♪令和2年10月11日(日)

新型コロナウイルス感染対策をして臨んだ「おさらい会」銭太鼓・どじょう掬い他、唄や三味線・鼓の音、リズムに乗って唄い踊った一時は、コロナ禍にもかかわらずお互いに元気をもらった。この元気を糧に

♪令和3年度資格審査会へー。

【伝統芸能安来節】芸を身につけ全国へ発信しましょう!

◆連絡先: 支部長 森脇 忍

東京都江東区塩浜1-13-1317 TEL&FAX 03-3615-0888